

〔特集:多民族・多宗教のマレーシアにおけるムスリムの社会移動〕

特集にあたって

本特集は、2014年度の研究会2日目に開催された国際シンポジウム『「教育立国」を目指すマレーシア——ムスリム・コミュニティにおける女性・英語・大学』(2014年12月14日、於:東京大学本郷キャンパス、山上会館会議室201、202)における報告内容をもとに書かれた英語による投稿原稿を、本誌の査読過程を経て掲載したものである。

特集に含まれる論考は、いずれも「教育立国」をめざすマレーシアの大学の博士課程で学ぶムスリム女性を中心に執筆された最新の研究成果をまとめたものであり、幅広い分野にわたって意欲的なアプローチがみられる。所収の3編は、(1)ムスリム起業家を通してみた宗教とビジネスの関係、(2)イスラーム無利子金融の一種であるカルド (*Qard*) に関するイスラーム法学、金融、経済学、心理学などからの多面的解釈、(3)マレーシア航空MH370便失踪事件をめぐる記者会見のあり方にみる参加アクター間の力学をそれぞれテーマとしており、各視点から現在のマレーシアの多民族・多宗教社会におけるムスリムの社会移動を描いている。日本のマレーシア研究者にとっても多くの示唆的な内容を含む論考といえよう。

なお、「論説」の欄に掲載されている光成歩会員の論考も、同シンポジウムで報告された内容をもとにしており、シンガポールの脱植民地化期におけるムスリムと非ムスリムの法制度の二分化を含めた制度改革の展開を扱っているが、査読の結果、論文としての水準の高さから別途、論説として載せることとした。 (編集委員会)